

第 59 回破壊靱性検討会 議事録

1. 日 時：平成 26 年 10 月 22 日(水) 13:30～17:25

2. 場 所：日本電気協会 4 階 C 会議室

3. 出席者（順不同，敬称略）

○出席委員；平野主査(IHI)，朝田副主査(MHI)，鬼沢(JAEA)，高本(MHPS)，辻(富士電機)，
廣川(日立 GE)，中川(日本原子力発電)，廣田(MHI)，梶田(東芝)，伊藤(中
部電力)，堀家(四電)，上坂(東電)，枅(電源開発)，
田中(日本製鋼所)，曾根田(電中研)

(計 15 名)

○代理出席者；大厩(関西電力，坂口代理)三浦(電中研，曾根田代理)※ (計 2 名)

○常時参加者；富松(MHI)，西山(JAEA)，神長(東電) (計 3 名)

○欠席委員；半田(JFE)，野崎(九州電力)，山下(神戸製鋼)，佐藤(発電技検)，
山崎(JANSI) (計 5
名)

○オブザーバ；阪本(MHI)，山本(電中研)，小枝(日本製鋼所)
(計 3 名)

○事務局；富澤(日本電気協会) (計 1

名)

※曾根田委員出席までの代理出席者

4. 配布資料

資料 59-1 委員名簿

資料 59-2 第 58 回破壊靱性検討会 議事録(案)

資料 59-3 JEAC4201-2007 についての質問

資料 59-4 JEAC4206-201X(原子炉压力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法)改定
案

(完本版、改定履歴付き)

資料 59-5 原子炉压力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法 新旧比較表(JSME
重複部削除)

資料 59-6 原子炉压力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法 新旧比較表(本文)

資料 59-7 原子炉压力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法 新旧比較表(附属書)

資料 59-8 原子炉压力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法 新旧比較表(解説)

資料 59-9 JEAC4206 改定案 第 41 回構造分科会(2014 年 6 月 6 日)及び第 51 回原子力規格委
員会(2014 年 6 月 20 日)での意見及び回答(案)

資料 59-10 JEAC4206 改定の方針(PTS 評価手法)

資料 59-11 塑性崩壊の評価式について

資料 59-12 ミニチュアコンパクト試験片 MC(T)の JEAC4216 への導入 進捗状況

資料 59-13 日本機械学会「発電用原子力設備規格 設計・建設規格」<第 1 編 軽水炉規格>

2012年版の正誤表の発行を踏まえた対応について

参考資料-1 国内原子炉圧力容器鋼に対する破壊靱性カーブの開発

5. 議 事

(1) 会議定足数の確認

事務局より、出席委員数は代理出席者を含めて16名で、検討会決議に必要な条件（委員総数(21名)の3分の2以上の出席)を満たしていることが確認された。(最終的には17名)

(2) 前回検討会議事録(案)の確認

事務局より、資料58-2により第57回破壊靱性検討会の議事録(案)が説明され、一部の誤記を修正し正式議事録とすることとなった。

(3) JEAC4201-2007 についての質問について

主査より、資料59-3に基づき、9月26日に日本電気協会のホームページに寄せられたJEAC4201-2007についての質問に対するについて説明があった。今後、構造分科会で審議が必要であるため、構造分科会長に事前説明することで事務局が日程調整することとなった。

(4) 塑性崩壊の評価式について

常時参加者より、資料59-11に基づき説明があった。一部修正するが、資料の修正版はメールで委員に送付することとなった。

(5) JEAC4206-201X (原子炉圧力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法) の検討について

委員より、資料59-4、資料59-9及び資料59-10に基づき、これまでの検討で出された意見等を反映した改定案の説明があった。

① JEAC4206-201X 本文 (完本版) について

本日の検討会等で出された修正点を反映するとともに、最終版化に向け委員で分担し最終確認することとなった。分担にあたっては、別途メールで連絡する。

② JEAC4206 改定案 第41回構造分科会(2014年6月6日)及び第51回原子力規格委員会(2014年6月20日)での意見及び回答(案)について

以下の点を反映し、構造分科会に報告する資料とすることとした。

- ・様式の該当箇所欄に資料番号を追記する。
- ・第51回原子力規格委員会の2の意見について、委員長コメントを追記する。
- ・日本機械学会の年次大会での投稿の記載については著作権等を考慮し削除する。
- ・第51回原子力規格委員会の5～7の回答の記載については、根拠を確認する。

③ JEAC4206 改定の方針 (PTS 評価手法) について

- ・PPT1枚目のタイトルを「…改定の概要」に修正する。
- ・2枚目にRF2100を例示として記載する。

- ・ 8 ページの弾性解析図は 13 ページの図と整合化するよう修正する。
- ・ 9 ページの KJC カーブ（点線）は削除する。
- ・ 最終ページ（改定案の評価他の図）は、中間報告資料では除いておく。

(6) JEAC4206-201X（原子炉压力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法）の構造分科会中間報告に向けた対応について、

主査より、構造分科会中間報告に向け委員全員（常時参加者含む）で誤記等がないか最終確認するため、別途メールにて分担を連絡する旨説明があり、取り纏め委員より、本日の検討を踏まえた修正版を 10 月 28 日に各担当にメール送付することとなった。

(7) ミニチュアコンパクト試験片 MC(T)の JEAC4216 への導入 進捗状況について

主査及びオブザーバ出席者より、資料 59-12 に基づき、「ミニチュアコンパクト試験片 MC(T)の JEAC4216 への導入 進捗状況」の説明があった。本資料については、次回の構造分科会への中間報告する議題に含めることとし、中間報告に向けて以下の主要点を修正し事務局に提出することとなった。

- ① MC法WGにて検討している内容について反映する。
- ② 1 枚目のタイトルはMC (T) →Mini-C (T) に変更する。
- ③ 最終ページの改定スケジュールを JEAC 4206 改定概要 PPT 同様のスケジュールの記載に修正する。

(8) 国内原子炉压力容器鋼に対する破壊靱性カーブの開発

委員より、参考資料-1 に基づき、日本機械学会 2014 年度年次大会で講演(9/17-9/10)した資料の紹介があった。

(9) 日本機械学会「発電用原子力設備規格 設計・建設規格」＜第 1 編 軽水炉規格＞2012 年版の正誤表の発行を踏まえた対応について

事務局より、資料 59-13 に基づき、9 月 17 日に原子力規制委員会より原子力規格委員会委員長に通知された資料について説明した。

(10) その他

次回（第 60 回）の検討会は 12/11(木) PM に開催することとした。

以 上